

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

- ・ 成績評価 (A～D) の割合を下記と定め、絶対評価ではなく相対評価をしていく
- ・ A (35%) B (40%) C・D (25%)
- ・ D評価は科目落第とし追試・追課題となる
- ・ 複数クラスや合同授業で行う場合も同様とする
- ・ 下位 25%はあらかじめ設定した合格点と成績の分布をみて判断する
- ・ この割合は目安であり、多少前後することもある
- ・ 試験や課題の結果によってはD評価が該当者なしの場合もありうる
- ・ 上記を客観的な指標とするため点数化を行い、総合評価指標とする
(A = 3、B = 2、C = 1、D = 0)
- (例) 10科目中、3科目…A、4科目…B、2科目…C、1科目…Dの場合、
 $(3 \times 3 + 4 \times 2 + 2 \times 1 + 1 \times 0) \div 10 = 1.9$ となる
- ・ 各期末毎に総合評価指標と分布状況を学生個人および保護者に通知する